

ナースイン花びりか

症 例 概 要 利用 者 ： 80代 男性 要介護4

利用期間：2025年12月下旬 ～ 現在

病名：脊髄損傷の術後、脊髄硬膜外膿瘍の術後、化膿性脊椎炎、大腸ポリープ他
経過：

美容師で自営していたが妻の死去を機に廃業し、その後は別職で生計を立て娘さんと二人暮らしを継続。令和7年、脊椎炎による固定術後に経管栄養を要する寝たきりとなる。回復期リハビリでも歩行獲得には至らずベッド中心となったが、娘さんが仕事と両立し在宅介護を継続しADLは徐々に拡大。誕生日には車椅子上で散髪を行い、娘さんへ感謝を伝える象徴的な一日となった症例。

内 容

美容師として自営で生計を立てていましたが、妻の死去を機に廃業し、その後は別の仕事で思春期の娘さんと二人三脚の生活を築いてきました。

令和7年、脊椎炎による固定術後に経管栄養を要する寝たきり状態となり、生活は一変。回復期リハビリでは目標であった歩行獲得には至らなかったものの、仕事しながらも父を自宅に帰したい、という娘さんの想いのもと、当事業所を利用する形で在宅生活が再開されました。

介護職員は美容師としての輝いていた過去を引き出し意欲向上を後押ししながら送迎支援や入浴介助を実施しました。ケアマネジャーは活動機会の確保やリハビリサービスの調整を行い、看護師は排便コントロールやバルーン管理、陰部洗浄などの医療的ケアを担いました。セラピストは訪問リハビリを通じて起居・立ち上がり動作の維持向上を支援し、多職種連携のもと生活の再構築が進みました。

誕生日には車椅子上で散髪を行い、スタッフによる「親子喧嘩あるある」をテーマにしたショートコント風の出し物も行われ、ご本人は自身と娘さんの歩みを重ねながら笑顔を見せる場面もありました。

その後、場の締めくくりとして、ご本人から娘さんへ感謝の手紙が読み上げられました。長年にわたり二人三脚で支え続けてくれた娘さんへの思いが言葉として紡がれ、これまでの生活の積み重ねが一つの形として結実する時間となりました。娘さんにとっても、そしてご本人にとっても、これまでの歩みを肯定する象徴的な瞬間となりました。

親子と支援者がともに紡いだ時間が形となった、かけがえのない一日となりました。

【多職種連携】情報共有し在宅生活をチームで支援

【介護】美容師としての経験を生かし意欲向上を支援、入浴介助で在宅生活を支援

【ケアマネジャー】活動機会を確保し生活継続を支援

【看護師】排便管理やバルーン管理、医療的ケアで安心した在宅生活を支援

【セラピスト】リハビリで起居・立ち上がり動作・身体機能維持を支援